

安田女子大学・安田女子短期大学における 初年次教育の現状 — 正課と正課外の有機的な連携 —

平本哲嗣
安田女子大学

1. はじめに

お話を始める前に、簡単な自己紹介をさせていただきます。私は安田女子大学文学部英語英米文学科に所属し、学生の英語指導に当たっています。専門は英語教育学です。学内の分掌では、学習支援センター運営委員、広報委員も務めています。

今日は、本学の初年次教育の取り組みにおいて正課の活動と正課外の活動がいかに結びつくかを中心にお話ししたいと思います。

2. 安田女子大学の紹介

まず、本学の沿革をご紹介します。1915年、安田リヨウにより、広島芸芸女学校として広島県広島市に創立され、1955年に短期大学、1966年に4年制大学を開設しました。現在、4年制大学は6学部、9学科、短期大学は2学科から成ります。

私は広報活動などを通して地元の企業の方とお話をする機会が多いのですが、その中でよく言及される本学の特徴がいくつかあります。最もよく言われるのは退学率の低さで、1年次が平均1.2%、卒業までが平均3.2%となっています。私も「まほろば教養ゼミ」という、後ほど詳しくご説明するゼミを、2008年度から4年間、持ちあがりを受け持ちましたが、60名弱いる学生のうち1人しか退学者を出しませんでした。就職率の高さも、地元企業の方からよく言われます。大学で96.2%、短期大学で99.2%です。教員採用試験にも大勢合格しており、私の所属する英語英米文学科でいうと、広島県、および広島市の公立中学校が今年の4月に採用した43人の英語教師のうち、既卒者を含めて本学出身者は15名、約34%に達します。地元の高校などでも評判になっているようで、新入生に「なぜうちの大学を選んだの?」と聞くと、大半の学生が「就職に強いから」と答えるほどです。また、学生のマナーが良いことも、地元企業の方から評価されています。

今日のテーマは初年次教育ですので、本論に入る前に、本学の新入生の四つの特徴を見てみましょう。一つ目は、入試の形態が多様化しているため、さまざまな学力の学生が入学してくること。二つ目は、本学を第1志望として入学してきた学生もいれば、第1志望の大学に合格できず、いわば不本意で入学してきた学生もいること。三つ目は、学生同士の間関係、友だちづくりに大きな関心を寄せる学生が多いこと。四つ目は、大学に入ってから学びのいかに適応するかに差が見られることです。適応できない学生は、偏差値のような受験の価値観から離れられないことが多いため、二つ目の特徴とも関係があるでしょう。

では本論に入ります。今日は、「オリエンテーションセミナー (オリゼミ)」「まほろば教養ゼミ」「教職員、学生の連携」の三つについてお話ししたいと思います。

3. 上級生中心に企画・運営される「オリゼミ」

一つ目は「オリエンテーションセミナー」ですが、本学では誰もが「オリゼミ」と略称していますから、ここでも略称を用いることにします。「オリゼミ」は上級生が新入生を歓迎し、大学生活の基礎を学ばせるための2泊3日のキャンプで、新入生が互いを全く知らない入学直後ではなく、大学生活にも少しなじんできた5月の連休明けに、広島県か島根県の国立施設で行います。

「オリゼミ」で行動をともにする上級生2人、新入生10数人のグループ(英語英米文学科の場合)は入学直後に決まり、「オリゼミ」に行く前から一緒に昼食を食べるなど交流を深めておきます。

「オリゼミ」のスケジュールはスライドの通りで、初日が開会式、グループ研修など、2日目が昼食づくり、英語ゲームなどのレクリエーションやキャンドルサービス等を楽しむキャンドルの集いなどを行います。私が所属する英語英米文学科では、今年度入学生から2年次後期に全員がアメリカに留学することになっており、初日には留学セミナーも行います。「オリゼミ」のグループの中には留学経験のある上級生もいますから、新入生は気になることを先輩に聞けるわけです。

「オリゼミ」のグループは、分団と呼んでいます。上級生は2名で、分団のリーダーとサブリーダーを務め、新入生10数名、教員1名が所属するのが基本です(英語英米文学科の場合)。教員の代わりに職員が入ることもあります。例えば、本学に新たに採用された職員が研修を兼ねてオリゼミに参加する場合があります。

「オリゼミ」には、上級生と教職員から成る実行委員会があり、委員長は3年生、副委員長は2年生が務めます。英語英米文学科では例年、3年生と2年生が6名ずつ実行委員会に参加します。学生部の教員や学生課の職員、学科教務職員も実行委員会に協力し、「オリゼミ」の運営・企画の面で学生をサポートします。なお、私たちは普段、学生の実行委員を「実行さん」と呼んでいますので、今日もそう呼ばせてください。

これは、先ほどタイムスケジュールでご説明した、2日目の夜の催し、キャンドルの集いで学生がパラパラを踊っている写真です。分団のリーダーとサブリーダーが前に出て、新入生は後ろで踊っています。

今年のキャンドルの集いでは、最後に、分団のリーダーとサブリーダーが実行さんに感謝の気持ちを伝える機会を、実行さんには内緒でつくりました。感極まって泣き出してしまう実行さんもいました。実行さんは1年次の夏休み前に募集し、3年次のオリゼミまで務めてもらいますが、その2年弱の思い出が胸を去来したのかもしれませんが。分団のリーダーとサブリーダーにも、もらい泣きをする学生がいました。新入生がそういう感動的な場面を目の当たりにすれば、「自分も実行委員になりたい」「来年度は分団のリーダー・サブリーダーとしてオリゼミに参加したい」という気持ちが強くなると思います。

4. 安田を知る・学びを知る・自分を知る・社会を知る

続いて、今日ご紹介する二つ目の取り組み、「まほろば教養ゼミ」についてお話しします。これは私が昨年度担当した4年生の「まほろば教養ゼミ」で、クリスマスパーティーをした後に撮影した写真です。今年度は、私は1年生の「まほろば教養ゼミ」を担当しています。

「まほろば教養ゼミ」は卒業必修科目で、通年1単位です。1年次から履修しますから、最終的には大学で4単位、短期大学で2単位になります。

取り組みの柱、いわば狙いは、「安田を知る」「学びを知る」「自分を知る」「社会を知る」です。一つの「まほろば教養ゼミ」に40～60名の学生が所属し、卒業するまで原則として同じチューターの指導を受けます。ですから、ゼミと言うよりも、クラスと言ったほうが合っているかもしれません。実際、私たちはクラスと呼んでいます。チューターはゼミ生の生活指導、学習指導はもちろん、それ以外のさまざまな相談に応じます。ゼミ生には「相談があれば、まずチューターへ」と伝えています。また、学内の諸手続を行いたいときも、かなりの場合において、「チューターの先生に相談してから来てください」と言われると思います。「まほろば教養ゼミ」の活動内容は、チューターとゼミ生の委員が相談して決めます。時には、スポーツやパーティーをすることもあります。

これは「まほろば教養ゼミ」で使用するテキストの写真です。左はチューター用「安田を知る」のテキストで、学園の歴史や創立者である安田リヨウの言葉などが載っています。右は学生用「学びを知る」のテキストで、大学生としての心構え、図書館での調べ物の仕方、公共の場でのマナーなど、新入生として知っておいて欲しいことなどが載っています。

5. 学生と一緒に取り組む「まほろば教養ゼミ」

「まほろば教養ゼミ」は、大学であれば木曜日の2時限目、短期大学であれば木曜日の3時限目に、全学科一斉に行います。自分の学習環境は自分できれいにするという意識を引き出そうと、1コマ90分のうち、初めの20分はどのゼミでも教室の掃除に充てています。私も学生と一緒に取り組んでいます。

授業時間90分の残りの70分に何を行うかは、先ほどお話ししたように、チューターとクラス委員のゼミ生が話し合って決めます。ただ、1年次前期の内容は入学直後ということもあり、おおむね決まっており、例えば私が所属する英語英米文学科では、今年度、次のような授業を行いました。

4月5日は、チューターガイダンス。入学直後ですがから、教員とゼミ生の顔合わせのようなものです。

4月12日は、初回授業。とはいえ、事務連絡がほとんどで、注意事項、教務課や学生課からの連絡事項を伝えます。

4月19日は、大学生活についての講話。大学生活について、チューターがゼミ生に話をします。

4月26日は、2クラス合同での学科長講話。クラスとはゼミのことです。学年に二つある（英語英米文学科の場合）ゼミと一緒に、学科長の話を聞きます。

5月10日は、諸連絡、学生自己紹介。

5月17日は、英語学習やキャリアについての講話。私のゼミでは、キャリア教育として、職業に関するNHKのドキュメンタリー番組のDVDを見ました。

5月24日は、学友会総会。

5月31日は、防犯教育講習会。

6月7日は、大学生活などについての講話。私のゼミでは、TOEIC®の仕組みなどを話しました。

6月14日は、健康教育講演会。

6月21日は、諸連絡。私のゼミでは、オープンキャンパス用にゼミ生に対するアンケートを実

施したり、前期試験について解説したりしました。

6月28日は、英語英米文学会講演会。英語英米文学科が運営する学会の講演です。

7月5日は、麻薬・薬物乱用防止講演会。

7月12日と19日は、ゼミ生スピーチ。前期を振り返って感じたことをゼミ生に話してもらいます。60人弱いるゼミ生全員が話せるように、2週間続けて行います。私はゼミ生に、ゼミの話だけでなく、大学生活全体について話してほしいと伝えました。そのほうが、ゼミ生が互いを知ることができると思ったからです。

6. 正課と正課外を結びつける「器」として機能

先日、ある職員と立ち話をしている、こんな質問を受けました。大学在学中に伸びる学生とそうでない学生の違いは、誰がどのように把握し、誰と共有しているのですか、と。

私が今年の5月に、本学のポータルサイト「まほろばポータル」で、英語英米文学科の1年生約120名に行ったアンケート調査によると、次のような悩みが挙がりました。「クラスメートみんなと仲良くなれるかどうか」「クラスになじめない」といった人間関係についてのもの、「英語の勉強の仕方」「2年次の留学までに力がつくかどうか不安」「前期末テストのイメージがつかめない」といった学習についてのものが目立ちました。ほかに、「受験で失敗したショックを引きずっている」「『まほろば教養ゼミ』でもっとゼミ生同士仲良くなる機会をつくってほしい」「『基礎演習』という授業は何のためにあるのかわからない」「就職はどうなるのでしょうか？」など、さまざまな悩みが寄せられました。このアンケート結果は学科で共有しています。

「まほろば教養ゼミ」は、1年次は、全学行事、学科行事が多いため、授業内容が学科ごとに決まっている傾向がありますが、2年次以降はゼミ生の意思をかなり柔軟に反映した授業づくりをします。卒業必修科目という正課でありながら、広く正課外にわたる多様な活動も可能ですから、正課と正課外を結びつける「器」として機能していると、私は考えています。

7. 一人の学生の成長を教職員が連携して支援できる仕組みに

今日お話しする三つ目の取り組み、「教職員、学生の連携」を見ていきましょう。

まずは、教職員の連携についてです。教職員の情報共有としては、次のようなことをしています。すなわち、学科ごとのメーリングリストの活用、授業や学生の様子に関する普段の情報交換、学内分掌での相互協力や協働作業といった具合です。教員同士が日常的に顔を合わせられるように、同じ学科の教員の研究室は一つのフロアに集中させています。英語英米文学科所属の教員の研究室は、原則として6階と7階に集まっています。数年前、他学科から英語英米文学科に移った教員がいましたが、その時は研究室も移動してもらいました。また、教員と職員の協力体制の構築としては、普段の業務での協力、グループウェアの活用、教員のFD研修への職員の参加などが挙げられます。

教職員の連携には、二つの課題があると、私は考えています。一つは、共有すべき情報が多すぎることです。そのため、誰が何の仕事をし、どれほど大変かが見えにくくなっており、業務を可視化する必要を感じています。もう一つの課題は、教員と職員の間で情報は共有できても、教育に対する理念や目的意識までは共有できていないことです。何のためにどのような授業をすべきかというイメージを教職員が共有できてこそ、より良い大学になれるのではないかと考えています。

次に、教職員と学生の連携についてですが、柱は三つあります。一つ目は、チューター制の活用です。チューターは、「まほろば教養ゼミ」を通じて、全面的に学生の相談に乗ります。二つ目の柱は、教務課所属の学科教務職員による学生支援です。学科教務職員は、さまざまな面で学生をサポートしてくれるありがたい存在で、先にご説明した「オリゼミ」実行委員会にも協力し、企画面でのアドバイスをしてくれます。また、学生の相談にも応じます。私が先日、たまたま教務課の前を通りかかると、学生が泣きながら教務職員に何かを話している姿が目に入りました。多分、人生相談をしていたのだと思います。教職員と学生が連携する上での三つ目の柱は、「まほろばポータル」の活用です。これは、本学が今年度から運用し始めたウェブ上のポータルサイトで、事務連絡機能に加え、ポートフォリオの中に、一人の学生の成長を教職員が連携して支援できる仕組みをつくりました。また、ポータル内のコミュニティでは、一人の学生が抱える課題を解決するために、同級生、先輩、後輩、教員、職員などさまざまな人たちが連携することができます。

学生指導の課題としては、学生の情報をいかに教職員間で共有し、解釈するかという点が挙げられます。本学の教員は、先ほど私が1年生の悩みをアンケート調査したように、学生についての情報収集には熱心なのですが、その分析にまでは手が回らないということが少なくありません。また、調査結果を分析し、何らかの課題を導き出したとしても、教員によって課題の受け取り方が違いますし、課題を解決するための方法についてはさらに意見が分かれますから、結局考えがまとまらないことが多いというのが現状です。

8. 教員へのさらなるサポートが必要

今年度の1年生について、前期の反省点を踏まえて後期の改善策をご紹介します。本学では日々の学生指導において、PDCAサイクルのC、Checkを誰がどのように行うかが明確でないため、CをG、Gatherにしてはどうだろうか、私は考えています。チェックするのではなく、みんなが集まって意見を交換しようということです。順番はPDGAだけでなく、GAPDも効果的ではないかと思えます。

最後に、今後の課題をお話します。まず、学生間により良い協働体制を築くためには、教員へのサポートが必要だと思います。例えば、「まほろば教養ゼミ」は学生間の協働体制構築に有意義だと考えられますが、現状では負担が教員に集中しています。改善したほうが、もっと充実した活動が生まれるはずですが、先ほども少し触れましたが、教員と職員が教育についての価値観を共有する必要もあると考えています。

ご清聴ありがとうございました。

安田女子大学・安田女子短期大学に おける初年次教育の現状 —正課と正課外の有機的な連携—

平本 哲嗣(安田女子大学)

1

大学の沿革

- 広島県広島市に所在
- 大正4年(1915年)学園創立
 - 安田リヨウによって広島技芸女学校創立
- 昭和30年(1955年)短大保育科開設
- 昭和41年(1966年)大学文学部開設

2

現在の体制

- 大学:6学部 9学科
 - 文学部(日本文学科、書道学科、英語英米文学科)
 - 教育学部(児童教育学科)
 - 心理学部(心理学科)
 - 現代ビジネス学部(現代ビジネス学科)
 - 家政学部(生活デザイン学科、管理栄養学科)
 - 薬学部(薬学科)
- 短大:2学科
 - 保育科
 - 秘書科

3

大学の特徴

- 在籍者数:短大、大学で合わせて4,300名程度
- 低い退学率(以下大学のデータ)
 - 1年次:1.2%
 - 卒業まで:3.2%
- 高い就職率
 - 大学:96.2%、短大:99.2%

4

新入生の多様性

- 入試形態の多様化
- 本命校か、「不本意入学」か
- 学生個人の間人性
 - 女子大:友達作りが大きな課題
- 入学する学科への適応度
 - 受験的価値観を離れ、大学での学びにどうやって適応するか?

5

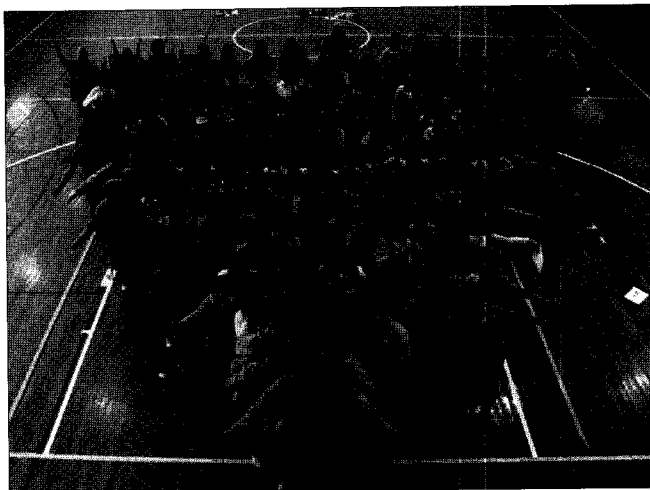
本日の話題

- オリエンテーションセミナー(オリゼミ)
- 「まほろば教養ゼミ」
- 教職員、学生の連携

6

1. オリエンテーションセミナー

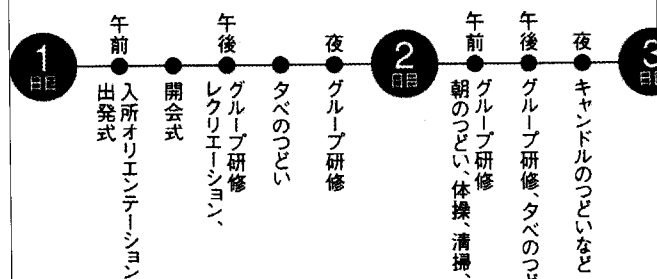
- 通称「オリゼミ」
- 昭和51年(1976年)より開始
- 目的: 大学生活の基礎をつくり、仲間や先輩との絆を深める(学科単位で実施)。
- 時期: 5月の連休明け(2泊3日)
- 場所: 青少年交流の家(江田島 or 三瓶)



7

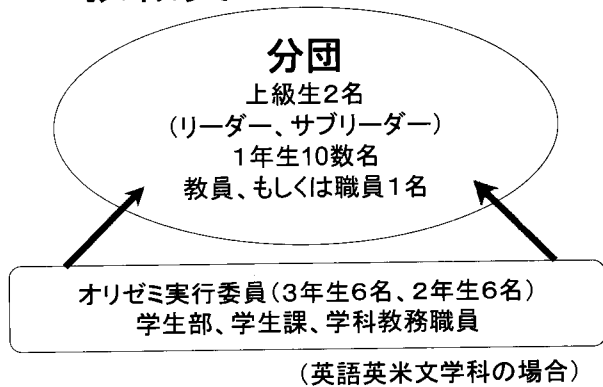
8

Time Schedule

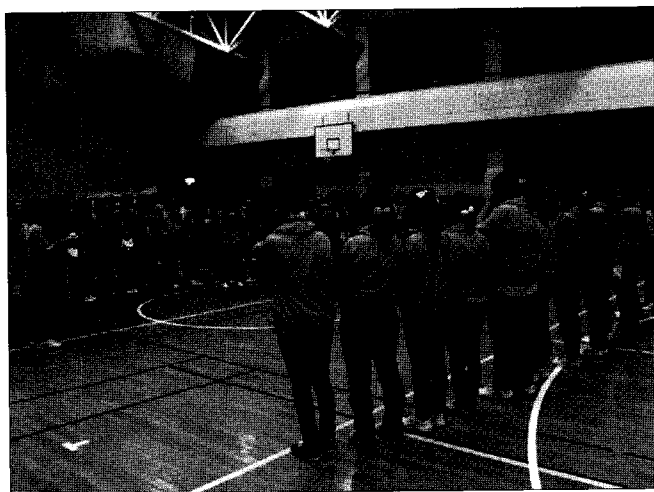


9

教職員と学生の関係



10



11

2. まほろば教養ゼミ



12

「まほろば教養ゼミ」の特徴 (1)

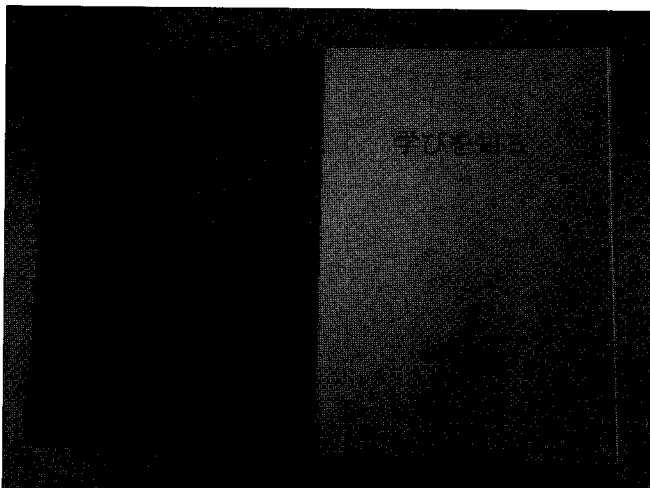
- 卒業必修科目(特別科目:通年1単位)
 - 大学は4単位、短大は2単位
- 4つの柱
 - 安田を知る
 - 学びを知る
 - 自分を知る
 - 社会を知る
- クラス単位(40名〜60名前後)で開講

13

「まほろば教養ゼミ」の特徴 (2)

- チューターは原則4年間変わらず
- クラスチューターによる個別の対応
 - 生活指導、学習指導など
 - 相談があればまずはチューターへ
- 活動内容はチューターとクラス委員が相談しながら決定する。
 - 時にはスポーツやパーティなどをすることもあり。

14



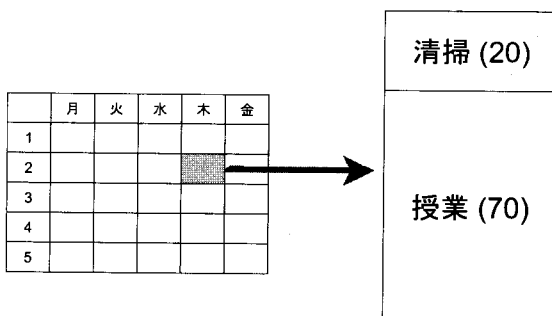
15

「まほろば教養ゼミ」について(大学の場合)

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

16

「まほろば教養ゼミ」について



17

英語英米文学科での現状 (1)

- 4月5日(木):チューターガイダンス
- 4月12日(木):初回授業
- 4月19日(木):大学生活について講話
- 4月26日(木):2クラス合同で学科長講話

18

英語英米文学科での現状 (2)

- 5月10日(木): 諸連絡、学生自己紹介
- 5月17日(木): 諸連絡、英語学習やキャリアについて講話(NHK「プロフェッショナル」を視聴)
- 5月24日(木): 学友会総会
- 5月31日(木): 防犯教育講習会

19

英語英米文学科での現状 (3)

- 6月7日(木): 諸連絡、大学生生活等について講話(TOEICの紹介など)
- 6月14日(木): 健康教育講演会
- 6月21日(木): 諸連絡(オープンキャンパス用のアンケートの実施や、期末試験について解説)
- 6月28日(木): 英語英米文学会講演会

20

英語英米文学科での現状 (4)

- 7月5日(木): 麻薬・薬物乱用防止講演会
- 7月12日(木): 諸連絡(期末試験について等)、学生スピーチ
- 7月19日(木): 諸連絡(夏休みの過ごし方等)、学生スピーチ

21

ある職員さんとの会話

- 「大学というところは、学生の出身高校や就職先に関するデータはかなり緻密に分析しているのに、在籍中に伸びる学生とそうでない学生の属性把握ができていないのではないのか？」
- 「誰が」「どのように」これを「把握」し、
- 「誰と」「共有」するのか？

22

1年生の悩みとは？

23

まほろばポータル

ポータル | お知らせ | 講座・レポート | プロフィール変更

テスト学生のポータルトップ

お知らせ欄

■ 休講	新着情報なし	◎一覧を見る
■ 新着	新着情報なし	◎一覧を見る
■ 秘密変更	新着情報なし	◎一覧を見る
■ その他の授業情報	平成24年度前期 再試験時期について シラバスの内容変更について	既読済 2012年08月24日 既読済 2012年07月24日
■ 学生専出	新着情報なし	◎一覧を見る
■ 学校情報	TEST	情報システム課 2012年08月29日 ◎一覧を見る

学内システム

- ◎ メール
- ◎ 印刷ポイント確認(学内)
- ◎ CampusPlan(学内)
- ◎ シラバ

リンク集

- ◎ スタム
- ◎ 事務局からお知らせ
- ◎ 安田学園サイト
- ◎ Google
- ◎ アンケートシステム

今週のスケジュール

9/02 (日)	9/03 (月)	9/04 (火)	9/05 (水)	9/06 (木)	9/07 (金)	9/08 (土)
	◎前期再試験 (大学卒業生)	◎前期再試験 (大学卒業生)	◎AO入試一次 ◎AO入試一次	◎AO入試一次 ◎AO入試一次	◎AO入試一次 ◎AO入試一次	◎AO入試一次 ◎AO入試一次
			◎AO入試一次 ◎AO入試一次	◎AO入試一次 ◎AO入試一次	◎AO入試一次 ◎AO入試一次	◎AO入試一次 ◎AO入試一次

◎月別カレンダー | ◎週間カレンダー

最新情報 | お知らせ

24

新入生の悩み、質問 (1)

- クラスメートみんなと仲良くなれるかどうか。
- 英語の勉強の仕方
- 2年次の留学までに力がつくのか不安
- 授業の課題に時間を取られすぎて、自分のための勉強ができない。

25

新入生の悩み、質問 (2)

- 受験で失敗したショックを引きづり続けている。
- 具体的な目標をみいだしてはいるものの、本当にこの大学で4年間スキルを上げたり、楽しめたりするかたまたま不安になる。
- (「まほろば教養ゼミ」において) 自己紹介みたいな以外に、もっとクラス全体で仲良くなる機会が欲しい。

26

新入生の悩み、質問 (3)

- 「基礎演習」が何のための授業なのか、よく分からない。
- サークルに入ろうか、入らないか迷い中
- だんだん慣れてきたので、自宅学習をもっと定着させたい。
- 友人関係(クラスに馴染めない、等)

27

新入生の悩み、質問 (4)

- 就職はどうなるのか？
- 同じ授業なのに、担当者が異なると教え方や内容の差がかなりある。
- 期末テストのイメージがつかめない。
- 授業と自分のレベルの差が大きい。

28

「まほろば教養ゼミ」



正課と正課外を結びつける「器」として
の機能

29

3. 教職員、学生の連携

- 教職員による情報の共有
- 学科メーリングリスト
- 平素の情報交換(授業や学生の様子について)
- 協働作業(学内分掌での相互協力)
- 教員と職員の協力体制の構築
- 平素の業務での協力、グループウェアの活用
- 教員のFD研修に職員も参加する、等

30

教職員間の連携における課題

- そもそも共有すべき情報が多すぎる。
- 誰がどんな仕事を担当し、どれだけ大変かが見えにくくなっている。→業務の「見える化」が必要では？
- 情報は共有しても、「教育に関する理念」や「目的意識」の共有が不十分→職員側から、「価値に関する提案」が出しにくい。

31

教職員と学生の連携は？

- チューター制の活用
- 学科教務職員(教務課所属)による学生の支援
- 「まほろばポータル」によって、教員、事務局、学生の連携を支援

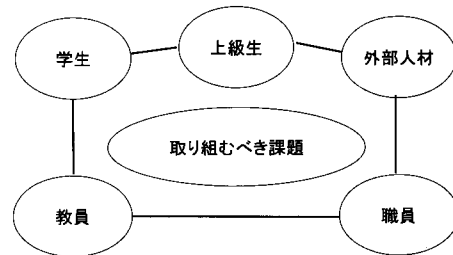
32



33

複層的な活動のありかた

例:「まほろばポータル」のコミュニティ



34

学生指導の課題

- 得た情報をどう共有、解釈するのか？
- 会議で資料として出したは良いが、それっきり
- 教員内でも受け止め方に温度差あり。
- 問題意識を共有しても、アプローチに個人差がある。

35

最近の気付き

- 前期の反省点から(「学科」の教育方針の確認)
- PDCAサイクルの見直し(誰がどうやってCheckする?)
- PDGA (Plan, Do, Gather, Action)や、GAPD等もありでは？
- どう教職員の意識の締め直しを図るのか？

36

今後の課題

- 学生間の協働体制をどう築くか
- 教職員はこれをどう支援するのか？
- 「先生が学生に教える」ばかりでは、教員の負担は増える一方→教員へのサポートを！
- 職員と教員でどう「望ましい教育」の価値観を共有し、実現していくのか？

37

ご清聴ありがとうございました。

38